

参考事例の見方について【歌唱・器楽・鑑賞】

第3学年 A 表現 (1) 歌唱

題材名「曲の山を工夫しよう」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育てる。

学習指導要領 第2「各学年の目標及び内容」のうち、ここでは第3学年及び第4学年の「目標」です。

学習指導要領 第2「各学年の目標及び内容」のうち、ここでは第3学年及び第4学年の歌唱の「内容」です。

【第3学年及び第4学年の歌唱の指導事項】

- ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。
- イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
- ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
- エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴きながら歌うこと。

題材全体を通して児童生徒に「確実に身に付けてほしい資質や能力」と中心となる「指導事項」です。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア、イ

- ・楽譜に対する関心を高め、ハ長調の視唱に慣れ親しみ、旋律の表現を豊かにする。
- ・歌詞の内容や旋律の抑揚から雄大な曲想を感じ取る。

当該学年（ここでは小学校3年）で取り扱うことになっている「歌唱共通教材」です。

【第3学年の歌唱共通教材】

- 「うさぎ」 (日本古謡)
- 「茶つみ」 (文部省唱歌)
- 「春の小川」 (文部省唱歌)
- 「ふじ山」 (文部省唱歌)

平成8年静岡県教育委員会発行の「静岡県こころのうた」から抜粋して、静岡県にまつわるコメントを添えています。

標高三七七六メートルの富士山は日本一の山です。しかも高さばかりか、その姿や形も日本一の美しさを誇り、孤高の美しさを保っています。広大な裾野を従えてそびえる富士山の歌は、昔から数えきれないほどたわね、親しまれてきました。その多くは孤高の美しさに心打たれたの思いが込められており、富士の崇高さに近づきたいという願望も含まれています。

たか
高野
いお
巖

治四十三年七月、文部省唱歌として制定され、尋常小学校読本唱歌『第四巻』に掲載された。

一、頭を雲の上に出し
四方の山を見下ろして
かみなりさまを 下に聞く
ふじは 日本一の山

二、青空高く そびえ立ち
体に雪の きものきて
かすみのすそを 遠くひく
ふじは 日本一の山

ふじ山

文部省唱歌
作詞 巖谷小波
作曲 不詳

○ 「ふじ山」の楽曲(

- 「ふじ山」の楽曲
 - ・ 範唱を聴いて感じ
 - ・ 歌詞を読み、全体
 - ・ 富士山について知っ
 - ・ 写真や歌詞をもとに、富士山の景色や歌詞に表現されている情景を想像する。
 - ・ 楽譜を目で追いながら歌う。
- ※この【学習活動例】は、活動の流れ（学習過程）を示しているわけではありません。

との関連

- 階名で歌ったり、歌詞・
・聴唱したり視唱した
・姿勢や口の開け方

○ 歌詞と旋律やリズム
考える。
・手でリズム打ちをし
特徴を見つける。
・ ♪♪ を ♪
を感じ取る。
・第4フレーズの ♪ を ♪♪♪ で歌ってみて、二分音符のよさ
や面白さを感じ取る。
- この題材で児童生徒に「聴き取らせたい」「知覚せたい」音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組を選び、それらに関連した学習活動を設定しました。この要素や仕組みの働きが生み出すよさや面白さ、しさを感じ取ることができるように指導を工夫する必要があります。
- ※児童生徒の表れによって、示した要素や仕組み以外のものを取り上げ、学習活動と関連させる場合もあります。

旋律
リズム

- 曲の山（一番盛り上がるところ）を見付け、表現を工夫して歌う。
・旋律曲線を描いたり旋律の音の高さを手の動きで表したりして、曲の山

旋律
強弱

評価規準から設定した学習目標、学習課題及び学習活動が見えてくること（整合性）が重要です。

音楽への関心・意欲・態度

唱を聴いたり、

- | | | |
|--|---------------------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う学習に取り組もうとしている。 | <p>指導事項アの評価規準例</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌っている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んでいる。 | <p>指導事項イの評価規準例</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふじ山」の歌詞の内容、曲想にふさわしい表現で歌っている。 |

指導事項イの評価規準例

ようにしていきましょう。

参考事例の見方について【音楽づくり・創作】

第1学年及び第2学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「いろいろな音をさがそう」 教材名「音はまわってこるよ」

【第1学年及び第2学年の目標】

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心を持ち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育てる。

学習指導要領 第2「各学年の目標及び内容」のうち、ここでは第1学年及び第2学年の「目標」です。

学習指導要領 第2「各学年の目標及び内容」のうち、ここでは第1学年及び第2学年の音楽づくりの「内容」です。

【第1学年及び第2学年の音楽づくりの指導事項】

- ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。
- イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

学習指導要領解説音楽編に掲載されている、各指導事項を指導するに当たって留意する具体的な例を示しています。

【指導に当たって】

- ア 身の回りの様々な音について、それぞれの音に特徴があることや一つの音の素材から様々な音が出せることなどに気付く、音の面白さや豊かさを味わうようにする。
- イ 児童が見付けた様々な音を用いるようにするなど、自らが音に働きかけて音を音楽にしていく過程を楽しむようにする。その際、教師は児童の感じ方や表現の良さを積極的に認めていくことが大切。

- ・児童一人一人の発想のよさを大切にする。
- ・視唱や視奏の活動において、児童の表現を認め、その音楽を再現したりする手掛かりとなる。

学習指導要領解説音楽編に掲載されている、音遊びや即興的な表現の例、活動の例などを示しています。

【ア 音遊びの例】

- ・リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、そのリズムを打ったりする遊び
- ・言葉の抑揚を短い旋律にして歌う遊び
- ・身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見付ける遊び
- ・体の動きに合わせて声や音を出す遊び など

【イ 活動の例】

- ・わらべうたに使われている音を用いて、問いと答えになるような短い旋律をつくる活動
- ・短いリズムをつくり、それを反復したりつないだりして簡単な音楽にする活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・自分たちの身の回りには様々な音があることに気付く。
- ・自分たちの身の回りにある音を見つけ、友達と約束事を決めて身近な音素材を用いて表現する活動をとおして、音の持っている特徴の面白さに気付く。

題材全体を通して児童生徒に「確実に身に付けてほしい資質や能力」と中心となる「指導事項」です。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ (例)	〔共通事項〕との関連
子どもたちは、身近な音に囲まれて生活している。しかし、音の存在を意識せずに生活している場合がほとんどである。児童生徒が生活かして表現を工夫する楽しさを味わうにつなげていく。 この題材で中心となる指導事項に対応した【学習の流れ（例）】を示しています。音楽づくりや創作活動では、作品の出来栄だけでなく、子どもたちが感性や創造性を働かせながら自分にとって価値のある音や音楽をつくる過程を見取り、価値付けていくことが大切になります。 そのような過程を大切にするという考えから、音楽づくり・創作では【学習の流れ（例）】として学習過程に沿って示しています。 子どもの実態と照らし合わせ、題材構想する際の参考にしてみてください。	印刷室から聞こえてくる印刷機が聞こえてくる音。いろいろな音があふれて魅力的な音があふれていく。 方法（記号や図形、文字や楽器等を使って再現して遊びの時間を十分に楽しませたい。
○ 学校を探検し、いろいろな場所から聴こえてくる音を集める。 ・耳をすまし、学校にある音を聴く。 ・必要に応じてメモをとれる。 ・できるだけ多くの場所で音を聴く。 ・どこでどんな音が聴こえてくるのかをメモする。 ○ 一番心に残った場所の音を聴く。 ・改めて注意深く聴くことで、音の特徴を聴き分ける。 ・様々な音が複雑に重なる場合がある。 ※自分たちなりの方法で記録することを伝えてから活動に移る。 ○ 集めた音を自分たちなりの方法で記録する。 ・形式にとらわれず、子どもたちが思い思いの絵や記号、図形や文字等を自由に使って描く。 ○ 記録を基に、聴こえてきた音をつくって表現する。 ・友達と協力しながらお気に入りの音を再現する。 ・身近な音素材や楽器を自由に扱いながら、自分たちの思いを表現できるよう工夫していく。 ※鳴らし方や回数、順番等、同じ演奏が行える（再現性のある）ことを条件として与え、演奏の約束として押さえる。	音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱
○ 「評価規準の作成のための参考資料」（平成22年国立教育政策研究所教育課程センター）の【評価規準の設定例】を参考に、中心となる指導事項に対応した【評価規準例】を示しています。※【学習の流れ(例)】に示したような学習活動を行った場合 評価規準から設定した学習目標、学習課題及び学習活動が見えてくること（整合性）が重要です。	

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・学校生活にある音の面白さに興味・関心を持ち、音遊びに楽しんで取り組もうとしている。	・学校生活にある音の音色、リズム、強弱等様々な特徴を生かして音遊びをしている。	・学校生活にある音の様々な特徴を生かして音遊びをしている。

指導事項Aの評価規準例

